

「いのち」の教育実践事例

☆県立加茂水産高等学校の実践

生命の継承の大切さに
関する教育

— 海洋は我らの生命 —

「平和の願い一筋に 世界を巡り包むもの 海洋は我ら、我らが生命」という校歌の一節に基づいた「いのち」の教育

○ 遡上した鮭からの採卵

鮭は川で生まれ、海で大きくなり、元の川に戻って子孫を残し、その一生を終えます。これは母川回帰（ぼせんかいき）と呼ばれ、豊かな資源を守り続けるためには、その資源の命の継承が必要です。

10月18日（月）遊佐町にある箕輪鮭孵化場にて2年海洋資源科アクアライフ系の生徒が採卵実習を実施しました。命の継承の場面に実際に立ち合い、実践することで、生命の営みやその大切さを再認識する貴重な体験となりました。

○ 海洋訓練と遠泳

本校は、海をフィールドとした実習や行事が多く、毎年1年生を対象として海洋訓練を実施しています。その目的は、慣海性を高め、危険防止や自らの命を守るための行動ができるようにするためです。

海洋訓練最終日に待ち構えているのが、加茂港から湯野浜までの遠泳です。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった分、今年は2年生の生徒も含めて実施し、39名が完泳証明書を手にしました。この経験を糧に自らの命を大切にし、どんな時でも挫けず生き抜くことができるよう期待します。

○ 救命訓練の実践

本校には、第二の校舎「鳥海丸」があります。乗船実習では、海難にあった場合を想定して、本番さながらの離船訓練が実施されます。当日は、着衣のまま、救命胴衣を着用して離船し、投げ込まれた救命いかだに訓練者全員が掴まるまで続けます。

全員が協力し、全員が生き残るために実施される訓練は、命の大切さを身近に感じ、お互いの協力体制が命の存続を分ける重要なポイントになることを学びます。

